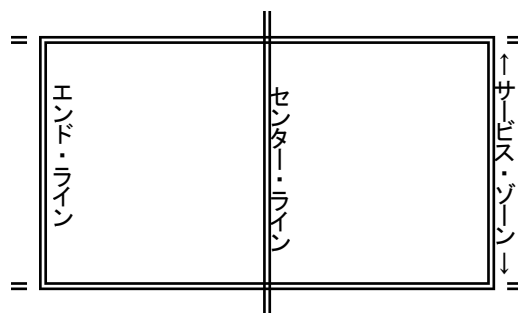


ソフトバレーボール競技規則（抜粋）※本大会特別ルール追加

1 施設と用具

- ① コートは、バドミントンコート外側（13.4m×6.1m）を使用する。
- ② ネットの高さは2.0mとし、幅80cmのソフトバレーボール用ネットを使用する。
- ③ アンテナは、ネット上端から1.0m上方に出るように、両支柱の外側の縁に接するように取り付ける。
- ④ ボールは、ソフトバレーボール試合球（ゴム製、円周78cm±1 cm）を使用する。



ネットの高さ(2.0m)

2 チーム編成

- ① **監督1名、選手8名の9名以内**。（監督が選手を兼ねる場合は8名以内。）
- ② 本大会は、競技中、コート上に**男性2名以内**でプレーしなければならない。

3 試合の開始と進行

- ① 試合開始の準備
 - ・試合開始前に、トスによりサービス権とコートを選択をする。
 - ・次のセットではコートを交代し、前のセットのはじめにサービスを行なったチームと反対側のチームがサービスを行なう。
※ただし、本大会では、最終（第3）セットが行なわれる場合は、もう一度トスを行なう。
最終（第3）セットは、どちらかのチームが5点先取すると同時にコートを交代する。
- ② 競技の中断
 - ・タイムアウトは、1セットにつき2回認められる。（1回につき30秒）
 - ・選手交代は1セット4回以内とし、同じ競技者とはしか交代できない。
 - ・タイムアウトと選手交代の際、監督が主審又は副審に申告する。

4 選手の位置

- ① 競技者はサービスが打たれたとき、前衛2人と後衛2人に位置する。
- ② サービスが打たれた後はどのように移動してもよく、ポジションによるプレー上の制限はない。
- ③ レシーブをするチームがサービス権を得たとき、そのチームの競技者は時計回りにひとつずつ位置を移動する。（ローテーション）
- ③ 新しいセットに入るときは、前のセットと異なったローテーション順に変えてもよい。

5 得点、セット及び試合の勝者

- ① 1セット15点のラリーポイント制。ただし、14対14の同点になった場合は、2点差がつくまで行すが、17点で打ち切り、17点を先取したチームがそのセットの勝者となる。
※ただし、本大会では、3セット目は10点先取とする。
- ② 試合は3セットマッチとし、2セット先取したチームが勝者となる。
- ③ 本大会の予選リーグ戦（リンク戦）では、次の順序で順位を決定する。
勝ち数 → 得失セット差 → 得失点差
(多い方) (多い方) (多い方)
※「得失点差」でも順位が決まらない場合は、チーム選手全員によるジャンケンで決める。

6 プレー中の動作

- ① サービス
 - ・ サービス・ゾーン内から、相手コートに打ち込まなければならない。
(アンダーハンド、オーバーハンド、ジャンプ・サービス可)
 - ・ サービスは1回とする。ただし、サービス・トスしたボールがサーバーの身体に触れないで床に落ちた場合は、1回だけサービスをやり直すことができる。
- ② ボールへの接触
 - ・ 相手コートにブロックへの接触を除いて最大限3回の接触で返球することができる。
 - ・ 競技者は連続して2回ボールを打つことはできない。
 - ・ 同一チームの2人の競技者が同時にボールに触れたときは、1回触れたものとし、その後いずれの競技者も引き続いてボールに触れることができる。
 - ・ ボールは、身体のどの部分に当たってもよい。
- ③ アタック
 - ・ 4人の競技者は、どの位置にいるときでもアタックすることができる。
 - ・ 相手方のサービスしたボールをアタックすることはできない。
- ④ ブロック
 - ・ 4人の競技者は、どの位置にいるときでもブロックすることができる。ただし、オーバーネットは許されない。
 - ・ 相手方のサービスしたボールを、ブロックすることはできない。
 - ・ ブロック後の第1回目の接触は、ブロックのときボールに触れた競技者を含め、だれでも接触することができる。

7 プレー上の反則

反則をした場合は、相手チームに1点が与えられる。

- ① サービス順の誤り
 - ・ チームが、ローテーション順を誤ってサービスを行ったとき。
- ② フット・フォールト
 - ・ サービス・ゾーンの外で、サービスを行ったとき。
 - ・ サービスを打つ際、エンド・ラインに足が触れたとき。
- ③ アウト・ポジション
 - ・ サービスが打たれたときに、両チームの各競技者が、コート内で正しいポジションに位置していなかったとき。

- ④ サービス・フォールト
 - ・サービスされたボールが、ネットあるいはアンテナに触れるか、相手方競技者に触れずに相手コートの外側に落ちたとき。
- ⑤ アタックの反則
 - ・サービスされたボールをアタックして、それが完了したとき。
- ⑥ ブロックの反則
 - ・サービスされたボールを、ブロックしたとき。
- ⑦ オーバー・タイムス
 - ・相手コートにブロックへの接触を除いて、最大限3回で返球することができなかつたとき。
- ⑧ ホールディング
 - ・明らかにボールが止まるようなプレーがあつたとき。
- ⑨ ドリブル
 - ・ブロックの場合を除き、同一競技者が明らかに2度続けてボールに触れたとき。
 - ・但し、ブロックの場合を除き、第1回目の接触は一つの動作中であれば身体の2ヶ所以上に連続して当たつても良い。
- ⑩ タッチ・ネット
 - ・プレー中に競技者がネットやアンテナに触れたとき。ただし、相手方の打球によりネットがふくらんでネットに触れた場合はよい。支柱に触れても、タッチ・ネットの反則にならない。
- ⑪ オーバー・ネット
 - ・相手コート上にあるボールに、ネットを越して触れたとき。
- ⑫ パッシング・ザ・センター・ライン
 - ・センター・ラインを完全に踏み越したとき。
 - ・体の部分が、センター・ラインを越して、少しでも相手コートに触れたとき。
- ⑬ 次の場合、ボール・アウトとなる。
 - ・ボールがアンテナのみに触れたとき。
 - ・ボールが、支柱とコート面に同時に触れたとき。
 - ・ボールが、2本のアンテナ、またはその想像延長線の間を通過しなかつたとき。
- ⑭ インター・フェア
 - ・相手チームのプレーを妨害する行為があつたとき。

8 その他

- ① サービスその他のプレーは、主審の笛の合図に従い行う。
- ② 試合間隔は3分間、セット間隔は1分間設ける。
- ③ 各チームの第1試合目に限り1分間の合同練習を行う。
- ④ 各試合開始前に、主審・副審・線審との打合せを行います。
- ⑤ 主審の試合開始の合図で全員そろっていない場合、そのチームは15分以内に集まることができれば第1セットのみ失つたこと(0-15)として、第2セットから継続して試合を行う。